



## 喜多塔

### 大坂冬の陣 四百年

今から四百年前、豊臣家と徳川家による天下を決める争いは、方広寺の鐘銘事件をきっかけに、**慶長十九年(一六一四)十一月十九日**、木津川口砦での戦端から、鳴野や野田など各地での戦いを経て、**大坂城での籠城戦**となつていきました。世に言う**大坂冬の陣**です。

結果としては皆様も御存知の通り、徳川方は兵糧不足から、豊臣方は夜通しの大砲攻撃による士気の低下により、停戦機運が高まり、**十二月二十日に和議が成立。停戦**となります。この時、この**北野村(梅田)**はどちらの味方をしたのかというと、伝承によると**全面的に豊臣方の味方**をしていたようで、大正時代の古老の言い伝えによると、北野村の村民は便衣兵(ゲリラ兵)として徳川方を大いに苦しめたといわれています。

当時、隣村である川崎村や天満付近には、徳川方の本多忠政、立花宗茂が布陣していた事からその周辺は徳川方についていた可能性が高く、梅田の北側である豊崎村も徳川方の味方をしていたといわれており、そんな中なぜ、北野村(梅田地域)の人々が豊臣方に味方したのかと考えると、史料性としては欠けませんが、伝承によれば**豊臣家は北野村(梅田)が好み**の場所であった可能性が考えられます。

『キタ風土記大阪』によれば、太閤秀吉は、北野村に**菜種御殿**という遊所を設けて春の風情を楽しんだといわれ、淀殿も北野村から中津村にかけて咲いていた**萩の花**の風情を好んで時々参向していたとされ(東光院由緒より)、豊臣家の人々にとって**憩いの地**であった可能性があります。中でも、太閤秀吉の正室**「ねね」**こと高台院は秀吉の菩提を弔うために建立した高台寺の境内に**網敷天神**を勧請し、**天満宮**を創建している事からも(諸説あります)、北野村と豊臣家の縁は深いものがあつたと察せられ、そうした縁が、劣勢にも関わらず**北野村が豊臣家の味方**をした大きな要因であつたのかもしれない。

### 七五三のご案内

御本社(神山町)では七五三のご祈禱を受付けております。まずはお電話で**ご予約**下さい。  
※七五三は**数之年**(満年齢に一歳足す)で計算します。

- ・三歳 平成廿四年生(辰) **女児**(又は男児)
- ・五歳 平成二二年生(寅) **男児**
- ・七歳 平成二〇年生(子) **女児**

御本社 ○六一三六一―二八八七

※なお、茶屋町の御旅社においては、少人数親族含め五名まで)であればお受け付け出来ます。

### 氏地案内「神山町」

当宮は氏地として、**旧北野村村域**である、北野連合振興町会、梅田東連合振興町会の全域と、万歳町、西天満六丁目、中崎西二丁目一部、曾根崎一丁目一部の**氏神さま**として鎮座いたしております。

この度、そのうちの**北野連合振興町会**が地域の歴史をまとめた地域誌を作成される事になり、この機会に**当社報**においても**氏地域**についてご紹介したいと思います。

まず当宮の御本社が鎮座しております神山町ですが、その名の通り**神山**という**小山**があり、そこから町名が生まれました。

当宮由緒によれば平安時代に、その小山に**嵯峨天皇さま**が**飯の御所**を構えられて一泊され、その**跡地**に**当宮御本社**が建立された事から神山の名が生まれたといわれています。

神山自体は戦前までしっかりと山の形を残していましたが、空襲で大きく崩れてしまいました。神山は当宮にとっても**大切な霊山**ですので、山を無くしてしまうのは忍びないと、戦後復興の際に残った神山の土を本殿の盛り土として用いる事により、現在、**御本社本殿**のあるところがすなわち**「神山」**といえます。

この神山を中心に発展してきた神山町は、まさに**大神さまのお膝元**といえる町です。

### 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、  
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

